

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-6-3
空港・港湾の維持・整備

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 港湾空港課 土肥美実 電話番号 0852-22-5228

事務事業の名称	港湾計画事業		
目的	(1) 対象	港湾・海岸の施設利用者	
	(2) 意図	港湾機能の安全性、利便性に配慮し、効率的な港湾整備計画を立てる。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 港湾・海岸の施設利用者に対して、港湾機能の安全性、利便性に配慮した、港湾整備計画を作成する。 重要港湾の現港湾計画の改訂にあたって、利用者の意見を聞くため、地方港湾審議会を開催する。 調査依頼者（国）に港湾に係るデータを迅速に提供するため、港湾統計調査員を委嘱し必要なデータを収集する。 重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）の港湾BCPをH28年度に策定。これらの港湾BCPに従い、災害時における港湾機能の低下を最小限に抑制して、港湾機能を早期回復できるよう訓練を実施する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）の整備率	目標値		73.2	89.3	90.4	91.0	%
	式・定義 港湾整備の実施済延長／港湾整備の計画延長	取組目標値						
		実績値	62.7	79.3	92.0			
2	指標名 重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）のBCP策定率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義 BCP策定数／重要港湾の全BCP策定数	取組目標値						
		実績値	0.0	100.0	100.0			
		達成率	-	108.4	103.1	-	-	%
		達成率	-	100.0	100.0	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,635	1,317
うち一般財源 (千円)	605	287

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 浜田港の物流・人流の活性化を図るため、H28年度に産学金官の64団体から組織する浜田港拠点化形成研究会を設立し、集貨対策、クルーズ客船誘致対策に継続して取り組んでいる。（平成29年度には、山口県萩市、阿武町、浜田海上保安部も新規入会し、67団体となった。）
- 重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）において、H27年度にBCP協議会を設立し、H28年度にBCP協議会のもとで港湾BCPを策定した。
- これらの港湾BCPに基づき、災害時を想定した訓練を年1回程度実施していく。
- 浜田港の港湾計画を平成29年11月に改訂した。
- 浜田港において、直轄事業として整備が進められていた臨港道路福井4号線が、平成30年3月31日に供用開始された。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 平成28年5月20日に産学金官の64団体から組織する「浜田港拠点化形成研究会」を設立し、集貨対策、クルーズ客船誘致対策に取り組む組織づくりを行い、継続的な活動を実施。
- これらの活動もあり、H29年度のコンテナ貨物量は、過去最高の取扱量となった。
- 平成30年には、浜田港開港（明治32年）以来、初の外国籍のクルーズ客船が（3回）入港し、平成31年も（3回の）寄港オファー有り。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 浜田港の埠頭が手狭なため、チップなど新規の貨物需要に対応できない状況。
- 西郷港小田地区の埠頭が手狭なため、原木を伐採地で仮置きし、埠頭用地への搬出量を調整している状況。

②困っている状況が発生している「原因」

- 浜田港の埠頭は以前は想定していなかった石炭やPKS（ヤシ殻）、コンテナ等の新規貨物を取扱うこととなったため、埠頭が手狭な状況となっている。
- 隠岐圏域の原木については、農林水産部の「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画（第3期戦略プラン編 H28～H31）（森林・林業戦略プラン）」において、島外（県外）への出荷を拡大する計画が策定されている。このプランに基づき、島内の原木生産量は拡大（H25 6,413t→H28 11,004t）してきており、島外（県外）への原木出荷が増えることに伴い、西郷港小田地区の埠頭利用の割合が拡大している状況。

③原因を解消するための「課題」

- 浜田港の埠頭用地の拡大には、大規模予算、長期に及ぶ整備期間、埠頭用地の拡大工事に伴う現有施設利用者との調整等々、これらの課題を解決していく必要がある。
- 西郷港小田地区の埠頭用地の拡大には、浜田港同様の課題を解決していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 浜田港の埠頭用地や岸壁等の不足解消と更なる物流・人流の活性化に向け、平成29年11月に港湾計画を改訂し、コスト縮減を図りながら埠頭用地、及び岸壁整備を進めていく。
- 西郷港小田地区の埠頭用地や岸壁等の不足解消と更なる物流の活性化に向けて、現港湾計画を平成30年度中に変更し、コスト縮減を図りながら埠頭用地、及び岸壁整備を進めていく。